

第6回会津若松市総合計画審議会（第2部会）の主な意見

部 会：第2部会 ひとつくり

日 時：平成28年6月1日（水） 10:00-12:00

場 所：ホテルニューパレス

出席者数：審議会委員 8名、オブザーバー 2名

No.	項目	委員からの主な意見
1	「政策分野1子ども・子育て」着眼点	会津若松市の出生率はどうなっているのか。
2	「政策分野1子ども・子育て」全般への意見	少子化で部活が成立しないなど、学校運営にも支障が出ている。ただ、一方で子どもを生むことを強く言うのもどうかと思う。自然に増えるのが理想だと思う。
3	「政策分野1子ども・子育て」全般への意見	経済的に厳しい家庭にとって医療費の無償化や保育料の減免はありがたい。市のこれまでの取組は非常に評価しており、これ以上、何を望めばいいかわからないくらいである。
4	「政策分野1子ども・子育て」施策2	待機児童がいないのは評価できるが、親が希望する場所へ預けることができるようにすべきで、潜在的待機児童についても解消すべきと考える。
5	「政策分野1子ども・子育て」着眼点	着眼点2について、子どもを持たない理由として養育費、教育費の問題もあるが、従事する仕事との兼ね合いもある。ライフワークバランスの視点を入れるか、もしくはぼやかして記載したらどうか。
6	「政策分野1子ども・子育て」施策3	男性の育児参加や育児休暇に関して、企業への支援を入れてはどうか。また、保育園等の運営への支援や連携など、個人や各家庭への支援のほか、民間や団体への支援の視点が必要ではないか。
7	「政策分野1子ども・子育て」施策2	他の政策分野での議論になると思うが、子どもが安心して遊べる公園の整備が必要ではないか。
8	「政策分野1子ども・子育て」施策全般	スマートシティを標榜している関係もあり、母子家庭支援の一つとして在宅勤務の支援が必要ではないか。
9	「政策分野1子ども・子育て」施策全般	待機児童ゼロは素晴らしい。保育園等を建てた後の運営実務上の支援について、行政もコミットしていくような記述を入れたらどうか。

No.	項目	委員からの主な意見
10	「政策分野1子ども・子育て」施策全般	学校内で（特に高学年児童の）子どもが放課後過ごせるスペースを整備する必要があるのではないか。
11	「政策分野2学校教育」全般	グローバルの視点を入れたらどうか。
12	「政策分野2学校教育」施策4	昨年4校に図書館司書を配置してもらい大変好評だった。学力向上や放課後の過ごし方の充実などにも効果があるので、図書室の整備、司書の配置を位置づけられないか。
13	「政策分野2 学校教育」施策4	図書館の司書にローテーションで各学校を回ってもらうような取組はできないか。
14	「政策分野2 学校教育」着眼点	肥満については、運動だけでなく食育もセットで考えたらどうか。また、親への食育の教育も必要ではないか。
15	「政策分野2 学校教育」施策4	市内の学校の耐震化の進捗はどの程度進んでいるのか
16	「政策分野2 学校教育」	一箕小の俳句など、各学校によって特色ある取組みがあるが、市全体として特色ある取組目標をつくれないうか。
17	「政策分野2 学校教育」	鶴城小学校を例として、公共施設に建築材のほか、地域エネルギー、ペレットストーブなど、地域材の活用を推進して欲しい。
18	「政策分野3 子どもへの個別支援」全般	本市の ・障がいのある子どもの人数 ・いじめの件数 など、全国と比較できるデータはあるのか。
19	「政策分野3 子どもへの個別支援」施策4	過疎地域の通学の利便性などはどのように対応しているのか。
20	「政策分野3 子どもへの個別支援」施策2	学校教育の中での障がい者教育を位置づける必要があるのではないか。また、障がい児の親への支援をどうするのか。さらに、障がい児の年齢に応じた支援の仕方を考えて欲しい。
21	「政策分野3 子どもへの個別支援」施策2	県養護学校生徒の会津若松駅から学校までの通学の支援をすべき。会津坂下町は会津若松駅まで生徒を送っている。

No.	項目	委員からの主な意見
22	「政策分野3 子どもへの個別支援」 着眼点	障がい児支援について、次期計画では、奨学金などの新たな金銭的な支援を考えているのか。
23	「政策分野3 子どもへの個別支援」 施策2	専門家がみないとわからない障がい児が増えているが、専門家が積極的に関われるような仕組みはできないか。早期発見につながるるとともに、教職員の負担軽減にもつながる
24	「政策分野3 子どもへの個別支援」 施策3	いじめ問題については、「逃げ場」をつくることが大事である。「逃げ場」のメッセージを打ち出した記載を入れられないか。
25	「政策分野4 地域による子ども育成」 施策1	放課後子ども教室などの取組について対象者へのアピールはどうなっているのか。また、子どもから見て魅力的な取組で、ニーズにマッチングしているのか。
26	「政策分野4 地域による子ども育成」 ほか	放課後子ども教室や障がい児教育関係の施策の策定にあたり、子どもや障がい者の親の意見は取り入れているのか。
27	「政策分野4 地域による子ども育成」 着眼点	「情報機器の過度の依存」とあるが、片方ではICTの積極的な活用を市の施策として掲げている。整合を取る必要があるのではないか。（時代に合っていないのではないか。）
28	「政策分野5 生涯学習」 施策3	市民がお互いに教えあう地域社会教育の場として、廃校の活用を考える必要があるのではないか。
29	「政策分野6 スポーツ」 施策2	県営武道館の誘致について会津若松市らしい取組なので積極的に行うべきである。武道館の誘致が可能であれば、市が新規に整備することなく、若い人も武道に親しめるような設備、仕組みができるだろう。
30	「政策分野6 スポーツ」 施策2	若者世代のためのボルダリングなどのスポーツ設備を整備するのも手段ではないか。
31	「政策分野6 スポーツ」 施策2	個人が気軽にスポーツできる場所が少ない。（団体しか利用できない。有料でも構わない。）

No.	項目	委員からの主な意見
32	「政策分野6 スポーツ」	なぎなたなどの活動が、どこでどのように行われているか、ホームページ等に掲載してはどうか。
33	「政策分野6 スポーツ」	会津に伝わる武術（古式泳法）を文化の継承の意味もこめて取り入れることはできないか。
34	「政策分野7 歴史・文化」施策1	「まちなかアートプロジェクト事業」について、県から市に移管後、全国から集まっていた漆器と職人が集まらなくなり、代わりに絵画を飾るようになるなど、変質してしまった。県との連携はどうなっているのか。
35	「政策分野7 歴史・文化」全般	市民が一つになれるベクトルとして、「サムライシティ」を一つのテーマとして、漆、桐、絵ろうそくなどの伝統文化とコラボレーションしたらどうか。
36	「政策分野7 歴史・文化」施策3	無形の歴史、文化、伝承なども入れる必要があるのではないか。
37	「政策分野7 歴史・文化」施策2	「学ぶ機会」をつくることを記載して欲しい。また「地域の文化」だけでなく「歴史」の文言も追加したらどうか。
38	「政策分野7 歴史・文化」全般	全般的に「文化」に偏っている。会津の歴史にもウエイトをおいた記載にして欲しい。
39	「政策分野7 歴史・文化」施策2	小学校低学年でも理解できる会津の歴史の教育（地元の子どもの声が聞く機会）を実施して欲しい。
40	「政策分野7 歴史・文化」	会津らしい歴史・文化・芸術に対して、地場産品の「会津ブランド」に相当するような認定はできないか。 人口減少時代、地域間競争が激化する。地域ブランドをつくる必要がある。